

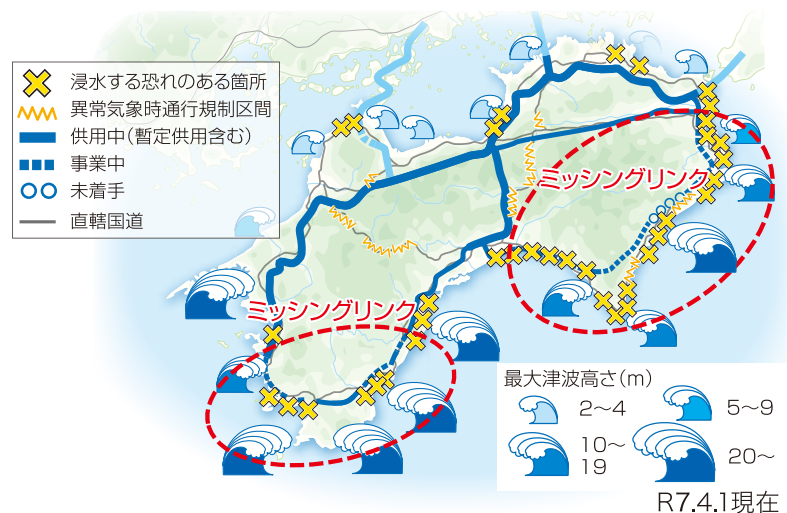
南海トラフ地震への備え

■ 南海トラフ地震が及ぼす甚大な被害

南海トラフ地震が発生すると、高知県のほぼ全域が震度6弱以上の強い揺れに襲われ、1m以上の津波が最短3分で到達します。特に、黒潮町と土佐清水市では、全国最大となる34mの津波の襲来が想定されています。

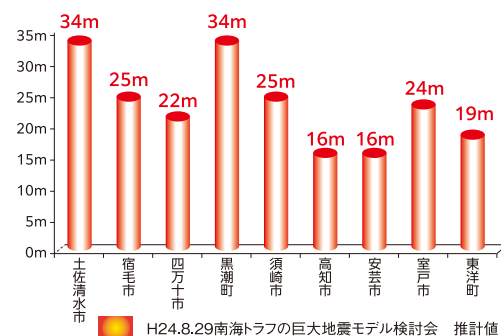
● 津波により唯一の幹線道路である国道が寸断

県東西を結ぶ幹線道路は、海岸線に沿って走る国道55号、56号しかありません。代替道路となる高規格道路には未連結区間（ミッシングリンク）が残るため、津波によって、唯一の国道が寸断されると地域全体が孤立してしまいます。



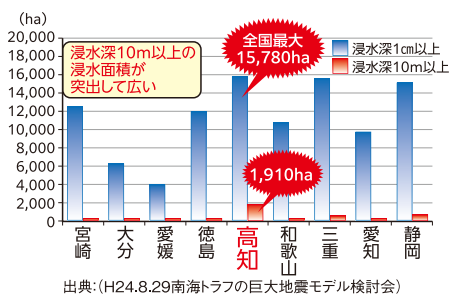
● 大津波が各地に襲来

○ 最大津波高



※基本的な検討ケース(計5ケース)とその他派生的な検討ケース(計6ケース)の合計11ケースのうち、市町村毎の最大津波高を示す。

○ 浸水面積



● 長期浸水により都市機能が麻痺

地震発生とともに県都高知市では、2mの地盤沈下が発生し、市街地全域が2,800haにわたって水没し、約13万人が避難を余儀なくされます。

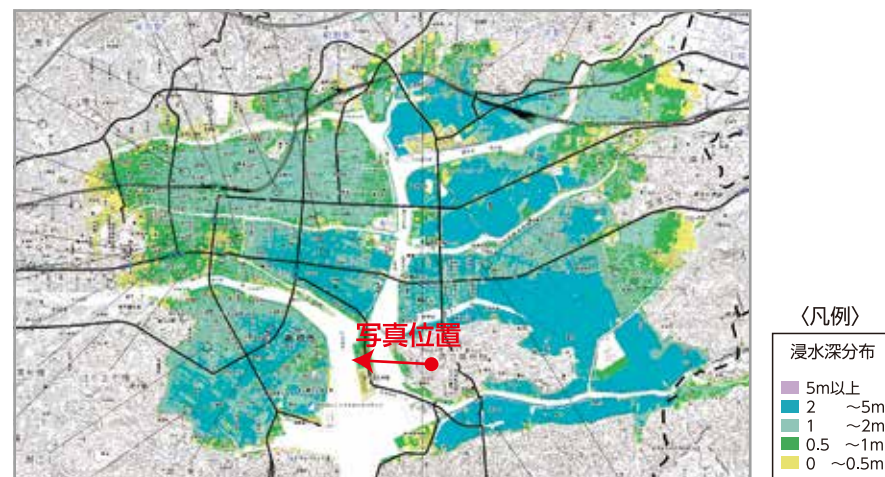
長期浸水区域の早期解消に向け、関係機関と連携して止水・排水対策等の検討を進めています。

昭和南海地震でも高知市内は浸水



・五台山より市内を望む(下図参照) 出典:南海トラフ地震に備えちよき(R2.12月:南海トラフ地震対策課)

高知市中心部付近 長期浸水予想図



H25.5.15【高知県版】南海トラフ巨大地震による被害想定 被害想定の数値結果(図面集)